

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-36833

(P2000-36833A)

(43) 公開日 平成12年2月2日(2000.2.2)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード [*] (参考)
H 0 4 L 12/54		H 0 4 L 11/20	1 0 1 C
12/58		H 0 4 M 3/00	B
H 0 4 M 3/00		3/42	Z
3/42		11/10	
11/10		H 0 4 N 1/00	1 0 7 Z
審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 5 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号 特願平10-234847

(22) 出願日 平成10年7月16日(1998.7.16)

(71) 出願人 598104779

旭ハイテック株式会社

東京都千代田区神田佐久間町2-18-5

(72) 発明者 手塚 直人

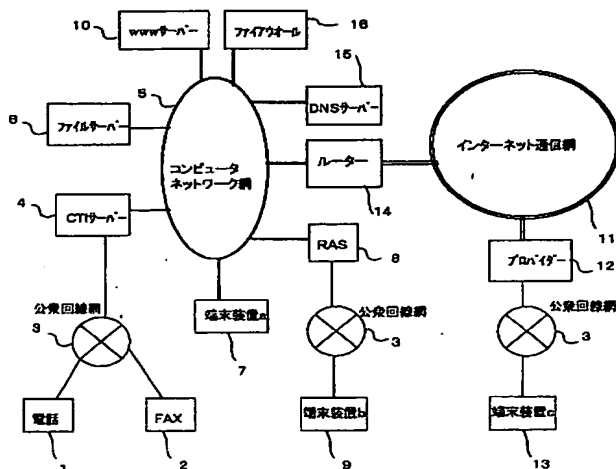
栃木県真岡市堀内559

(54) 【発明の名称】 電話・ファクシミリ送信データの記録方式

(57) 【要約】

【目的】 Computer Telephony Integration (CTI) ネットワーク環境下において電話機やファクシミリ機の利用者が発信するデータを、受信する端末装置で、ファイル名を送信内容分類名に自動変換し発信者別に保存する方法を提供する。

【構成】 電話機1及びファクシミリ機2は公衆回線網3を通じ、コンピュータネットワーク網5に直接接続されたCTIサーバー4に接続され、データはファイルとして、ファイルサーバー6に保存される。保存されたファイルは、ネットワーク5に直接接続された端末装置7や公衆回線網3を経てネットワーク5に直接接続される端末装置9及びインターネットを経由し接続される端末装置13によって、ダウンロードや閲覧する事ができる。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 電話機とファクシミリ機による通信が可能な電気通信網に記録制御局が設置され、前記通信網記録制御局に、送信者が電話機やファクシミリ機を用い、送信した音声や画像データの記録を可能とする記録装置と、受信者が、前記通信網記録制御局にコンピュータネットワークを経由し、前記送信者が送信した記録データを受信する環境にあって、送信者の電話機やファクシミリ機の操作により送信された、送信者を識別する番号と電話機やファクシミリ機によって送信されたデータの送信内容分類番号を、識別論理番号として保持するステップと、前記識別論理番号と対応させ送信者の登録された名称形式と送信内容分類名称形式に変換する変換テーブルを具備し、前記識別論理番号は前記変換テーブルを参照することにより、送信内容分類名称形式に変換されるステップと、電話機やファクシミリ機によって送信されたデータの記録形式として、前記論理番号の変換された形式をファイル名の一部として用いるステップと、前記ファイルを送信者の関連した記録場所を選択し記録するステップを用い、受信者が電話機やファクシミリ機により送信されたデータを、送信者と関連づけられた場所に記録されたファイルのファイル名で送信内容分類名称を確認することが出来ることを特徴とする、電話機・ファクシミリ機送信データ記録方式。

【請求項 2】 前記請求項 1 において、電話機やファクシミリ機によって送信されたデータの記録形式として、前記論理番号の変換された形式をファイル名の一部として用いるステップに替わり、前記変換された論理番号を電話機やファクシミリ機によって送信されたデータの関連した別データとして記録するステップを用い、受信者が電話機やファクシミリ機により送信されたデータを、前記関連づけられた別データを参照にする事で、送信内容分類名称を確認することが出来ることを特徴とする、電話機・ファクシミリ機送信データ記録方式。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は電気通信回線とコンピュータによるネットワーク網を利用する、電話機もしくはファクシミリ機による送信データをコンピュータ端末装置により受信する場合においての、機能高度化技術に関する。

【0002】

【従来の技術】 近年、電話機やファクシミリ機による通信は、Computer Telephony Integration (CTI) 技術の発達により、電話やファクシミリの通信内容をコンピュータ端末装置で確認できる技術が普及してきたことは知られている。

【0003】 具体的な例としては、一般に普及し効率的な運用が可能な、電子メールにおいても、表題をもって文書内容を確認できる方式をとっている。しかし、受信

の記録場所は専用の受信フォルダーであり、多くの送信者からの電子メールがすべて同じ場所に保存されるため、受信者が送信者を確認して、別のフォルダーへ記録するか、送信者別のデータベースに関連づけをする手段がとられている。

【0004】 電話機やファクシミリ機により送信されたデータは、前記のように送信内容を表示する手段もなく、受信者が内容の確認をし、内容に沿ったファイル名に変更後記録する作業や送信者のデータベースに関連づける作業を行っている。そこで、益々増加する情報量に対し、もっと効率的に情報を管理できないかと指摘されている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 上述したように、従来の方法は、単に電話機やファクシミリ機の送信データをコンピュータで確認や記録ができるようになった程度のものであり、内容識別やファイル名変更と記録は、受信者が行っていた。

【0006】 本発明は、前記受信者が電話機やファクシミリ機による送信データを簡単に内容分類や識別を可能にすることや、ファイル名変更と記録作業を、自動化する事により、より効率的な情報管理を可能とする、記録方式を提供することである。

【0007】

【課題を解決するための手段】 本発明は上述の課題を解決しその目的を達成するために、次のような手段を講じている。すなわち、本発明の電話機やファクシミリ機で送信した音声や画像データの記録方式は、送信者が電話機やファクシミリ機でデータを送信できる電気通信網と、受信者がコンピュータ端末機で送信されたデータを受信が可能とする通信網記録制御局を有する通信網において、通信網記録制御局や受信コンピュータ端末に、送信者が電話機やファクシミリ機を用いダイヤルした、識別論理番号に対応する、送信者名称と送信内容を分類する名称を表示する形式に変換する、変換テーブルを含む記録手段（例えばデータベース）を有する。

【0008】 受信した識別論理番号を変換し、受信記録を閲覧に利用できるファイルの作成と論理番号を変換し送信内容分類名を表示する形式、もしくは、変換しない論理番号を用い、電話機やファクシミリ機の送信データ記録ファイル名の一部や関連づけされた別データとして、受信者と関連づけされた記録場所か受信者と関連づけされた記録場所内の送信者と関連づけされた記録場所へ記録する。受信端末装置はコンピュータ通信網を経由し前記通信網記録制御局から、記録されたファイルの閲覧とダウンロードを可能し、ダウンロードする場合には、送信者と関連づけされた記録場所へ記録する、電話・ファクシミリデータ記録方法により動作される。

【0009】

【作用】 このような手段を講じたことにより、本発明の

3

システムは次のような作用を奏する。すなわち、本システム中の通信網記録制御局や受信端末に、データベース中の所定テーブルにあらかじめ設定されている送信・受信の可能な登録者識別番号と送信内容分類番号を参照しながら、受信した論理番号を登録者名称と送信内容分類名称に変換し、受信した電話・ファクシミリデータの記録ファイル名の一部として用いるか、もしくは関連するファイルに記録することにより、受信者は送信者の関連する場所に記録されたファイルの内容分類名の含まれたファイル名もしくは関連ファイルを確認するだけで、電話機やファクシミリ機で送信された内容を想定できる。

【0010】

【実施例】以下、図面を参照して本発明の実施例の形態について説明する。図1は送信する電話機やファクシミリ機から受信する端末装置までの全体構成図である。

【0011】図示のように、コンピュータネットワーク網5で構成された通信網記録制御局には、公衆回線網と接続するCTIサーバーと受信したデータを記録するファイルサーバーやネットワーク網外部から受信のためのルータやRASなどが接続されている。

【0012】図1において、電話機やファクシミリ機の場合は公衆回線網を通じて、CTIサーバーに送信される。送信者は通信網記録制御局にログインするため登録者識別番号とパスワード番号を、送信機器のボタン操作で入力する。CTIサーバーは、その時の信号で登録された番号と照合を行い、送信者のネットワークへの進入を可能とする。この時、送信者の登録者識別番号を保持しておく。

【0013】つぎに、送信者は送信の内容が、音声または画像データの選択と、受信者の登録者識別番号と送信内容分類番号を、以下のように送信機器のボタン操作を使用して入力する。

【0014】電話機での音声ファイルの送信場合は1、ファクシミリ機による画像送信の場合は2を入力する。

【0015】受信者の登録者識別番号を入力する。

【0016】送信の内容は、あらかじめ決められた以下の番号(0~99)をもとに、見積もりの場合1、発注書の場合2、請求書の場合3、議事録の場合4、財務報告の場合5、依頼書の場合6、調査報告の場合7、などを用いて入力する。このときの送信内容分類名は、送信者と受信者間であらかじめ取り決めをしておく。

【0017】CTIサーバーは、上述した送信機器でのボタン操作により入力させた信号を、デジタル変換し保持している。例えば、1997年12月26日13時12分30秒に登録者名〇〇〇〇(登録者識別番号1234567890)の人から見積もり書を受信者名△△△(登録者識別番号1002003001)の人にファクシミリ機で送信する場合、保持すべき論理番号は、送信者の登録者識別論理番号”1234567890

4

“と受信者の登録者識別論理番号”1002003001 “と送信機の分類論理番号”2 “とCTIサーバーが受信した日時論理番号”19971226131230”と送信内容分類論理番号“1”となる。

【0018】その後に電話機で音声メッセージの登録、若しくはファクシミリ機で画像データの送信を行う。

【0019】CTIサーバーは電話機による音声データを受信した場合は、wav形式をもちい、ファクシミリ機による送信の場合は、tif形式をもちいて保持する。

【0020】つぎに、保持された音声データや画像データをファイルとして記録するために、前に保持された論理番号を用い、ファイル形式をCTIサーバーの受信日時論理番号_送信者の登録者識別論理番号_送信内容分類論理番号_機種別ファイル形式となる。つまり、前記の条件で送信された場合のファイル名形式は、19971226131230_1234567890_1.tifとなる。

【0021】前述ファイル形式は、ネットワークを経由しファイルサーバー内受信者の登録者識別論理番号”1002003001 “と関連する所定の記録場所に記録される。

【0022】また、受信者が、自分宛の受信記録状況を確認するため、記録管理ファイルを変更する。前記保持された論理番号の中から、送信者の登録者識別論理番号”1234567890 “と送信機の分類論理番号”2 “を登録された名称形式に変換する変換テーブルを用い、前記論理番号は前記変換テーブルを参照することにより、送信者名称”〇〇〇〇 “と送信機種名”ファクシミリ “とし、CTIサーバーが受信した受信日時”1997/12/2613:12'30” が、記録管理ファイルに追記される。

【0023】つぎに、上述のファイルサーバーに保存されたデータファイルを、受信者が端末装置で確認する場合について述べる。

【0024】端末装置aは、通信網記録制御局に直接接続された端末装置である。端末装置bは、通信網記録制御局に接続されたRASを介し、公衆回線網を経由して接続された端末装置である。端末装置cは、通信網記録制御局内のWWWサーバーやルータなどを経て、インターネット回線網を経由して、プロバイダーに接続され、公衆回線網を経由して接続される端末装置である。

【0025】ファイルサーバーに保存された受信データファイルを、受信者が端末装置で確認する場合について述べる。

【0026】受信者は端末装置を使用して通信網記録制御局にログインするため、受信者の登録者識別番号とパスワード番号の入力を端末装置にて行い、ネットワークに進入する。

【0027】受信者は、前記記録管理ファイルにより、

ファイルサーバーに記録されている、ファイルを送信者名称と受信日時と送信機種を確認でき、その場で、ファイルを指定するとファイルサーバー内のファイルがオープンし閲覧することが出来る。

【0028】また、ファイルサーバーより受信端末に自宛宛の受信ファイルをダウンロードする場合に付いて述べる。受信者は通信網記録制御局にログインし受信者用閲覧画面の操作と受信端末内のソフトウェア操作で、通信回線網を経由しファイルのダウンロードが可能である。

【0029】端末装置は、ダウンロードされるファイルのファイル名を保持し、ファイル名“19971226131230_1234567890_1.tif”に使用されている論理番号19971226131230に対応させ通信網記録制御局が送信者より受信した日時形式“1997 1226 131230”に変換する。つぎに、送信内容分類番号の“1”と送信者の登録者識別番号“1234567890”に対応させて、送信内容分類名称と登録者名称のデータベースを参照に“見積書”と“〇〇〇〇”に変換し保持する。

【0030】つぎに、ダウンロードされた前記ファイル名を保持したデータを用い“見積書 1997 1226 131230.tif”と変換し、送信者管理ファイルを参照に記録場所の決定を行い送信者名フォルダーに記録する。また、送信者管理ファイルに送信者名が登録されていない場合は、管理ファイルは自動的に送信者の名称入力画面を表示し、受信者が名称入力をすれば、登録とフォルダー作成を行い、作成されたフォルダーにファイルを記録する。

【0031】

【発明の効果】 以上に説明したように、従来、電話機とファクシミリ機による送信データの内容は、受信者が送信された音声ファイルや画像ファイルの内容を確認してから、分類し保存していたが、本発明により、送信内容を想定できる分類名称を含むファイル名に自動的変換し、ファイルの保存場所を送信者フォルダーに選択して保存するため、受信者は、ファイル名または管理ファイルを確認するだけで、送信されてきたデータの内容を想定できる。

【0032】また、受信端末側では、送信者のデータ管理のために使用するデータベースを使用した場合、受信したファイルをひとつづつ関連づけするのではなく、関連づけされたフォルダーに自動的に記録されるため、煩わしい関連づけ作業が必要なくなる。

【0033】よって、新しい受信があった場合、受信者は送信ファイル名をもとに、送信内容ランクづけし、重要度の高い送信ファイルから選択して確認でき、過去に受信したファイルも、送信者ごとに分類し保存してあるため、簡単に過去の通信履歴を確認できる。

【0034】また、前記送信内容分類番号を、通信網記録制御局内で送信内容分類名称に変換しない本実施例は、送信者と受信者間だけで、100種の分類名称が使用でき、全く別の送信内容分類名を別の送信者と受信者間で決めることができるように対応させている。

【0035】従って、本発明の目的であるところの、電話機やファクシミリ機による送信データを、受信者が簡単に内容分類や識別を可能にすることやファイル名変更と記録作業を、自動化する事が可能となり、より効率的な情報管理を可能とする、記録方式を提供することができた。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の実施例に関わるシステム全体のネットワーク構成図。

【図2】 本実施例の送信者や受信者の登録者を識別する論理番号データベース中の管理データテーブルを示す説明図。

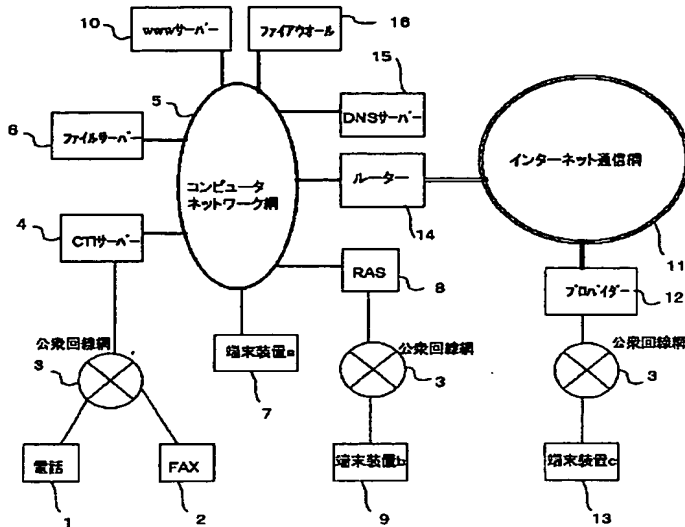
【図3】 本実施例の送信内容分類名称を識別する論理番号データベース中の管理データテーブルを示す説明図。

【図4】 本実施例の受信端末で受信記録を確認する場合の説明図。

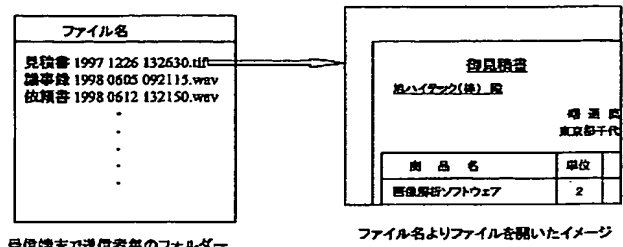
【符号の説明】

1 : 電話機	2 : ファクシ
30 ミリ機	
3 : 公衆回線網	4 : CTIサ
サーバー	
5 : コンピュータネットワーク網	6 : ファイル
サーバー	
7 : 端末装置 a	8 : RAS
9 : 端末装置 b	10 : wwwサ
サーバー	
11 : インターネット通信網	12 : プロバ
イダー	
13 : 端末装置 c	14 : ルータ
ー	
15 : DNSサーバー	16 : ファイ
アウォール	

【図 1】



【図 4】



【図 2】

登録者識別番号	登録者名称
1 2 3 4 5 6 7 8 9 0	〇〇〇〇
1 0 0 2 0 0 3 0 0 1	△△△△
.	.
.	.
.	.

【図 3】

送信内容分類番号	送信内容分類名称
1	見録書
2	録事録
3	請求書
4	録事録
.	.
.	.

フロントページの続き

(51) Int. Cl. ⁷H 0 4 N 1/00
1/32

識別記号

1 0 7

F I

H 0 4 N 1/32

テーマコード* (参考)

Z

BEST AVAILABLE COPY